

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。</p>	<p>2 友達への思いやり</p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】○学校から保護者へは、学校便り、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。保護者・児童・教職員とも「3」「4」の割合は昨年とあまり変化は見られないが、保護者の「1」評価が1%あることを謙虚に受け止め、さらに一人一人を大切にしたい指導や対応を行う。○教師も保護者も、児童は友だちと仲良く学校生活を送っていると考えており、特に児童の「4」の割合が高い。しかし、わずかだが「2」「1」もあるので、教職員が見えていない部分を掘り起こし、原因を知り、確認しながら教育に取り組んでいきたい。○本年度は道徳が教科化され、学校としても力を入れて取り組んできたことでもあり、教職員の評価は高い。しかし、保護者の評価とは差が大きいため、心の教育の充実について、なお一層、家庭と連携・協力を図っていく必要がある。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<p>4 意欲的な学習態度</p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>5 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>6 ICT活用</p> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】○学習意欲に関しては、「4」「3」の割合が、保護者・児童・教職員ともにほぼ一致し、90%以上の児童が客観的にも主観的にも意欲を持って学習に取り組んでいるという好結果が得られた。児童の「4」に対して教職員の「4」の割合が低いのは、期待値が高いためと推測される。○同様に、授業力向上についても、さらなる研修の必要性を感じているところである。○ICT活用に関しては、新設校であり、ICT機器の絶対数が不足していたことが評価の低さと関係があると考えられる。本年度末にICT機器が整備されたことから、今後は大いに活用を図り、分かりやすい授業づくりに取り組んでいきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<p>7 健康づくり</p> <p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>【学校から】○年間計画に沿って体力づくり・食育の推進等を行ってきたが、わずかではあるが、児童・教職員ともに昨年度より評価が下がっている。原因を把握し、更なる取り組みと、改善をすすめていきたい。</p>	
--	--

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

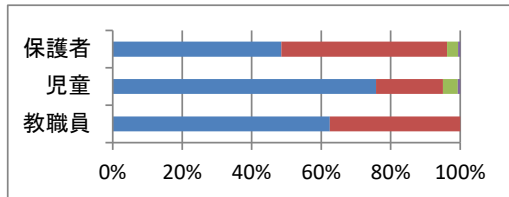
<p>8 児童生徒理解</p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>②特別支援教育の推進</p> <p>10 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】○児童理解に関しては、保護者・児童ともに「4」「3」の割合が、昨年より高くなっている。担任をはじめ教職員が連携をし、児童の良いところを見つめそれを伸ばそうと努めている結果であると考えられる。しかし、「2」「1」の割合が、保護者では7%、児童では6%あることを真摯に受け止め、全ての児童に自己肯定感を持ってもらえるような教育活動をすすめていきたい。○また、いじめや問題への対応と学校の支援体制についても、保護者と教職員とでは評価に大きな差がある。児童のことに保護者と相談する機会を持ったり、学校で児童に行った対応や指導をきちんと保護者に伝えたり、懇談会や学級通信を活用して学校での出来事を知らせたりすることにより、一人一人の児童に寄り添った信頼される学校づくりに努めていく。</p>		

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

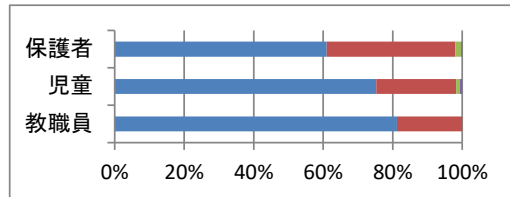
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】○日頃より、校内事故や交通事故も含め、事故防止には最善の注意を払って取り組んでいる。今後は、児童が自ら危険を回避したり、安全に留意して自主的に活動したりする安全防災教育に努めていきたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

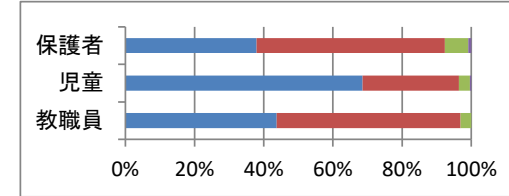


【学校から】○新設校であるが、先の熊本地震で損傷した部分もある。破損に関しては迅速に対応しており、遊具点検も毎朝教職員が行っているが、保護者の「4」の割合が低い原因を探り、対応・対処していきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

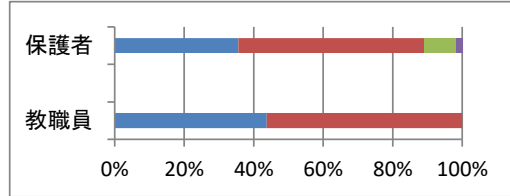
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】○学校から保護者へは、学校便り、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。保護者・児童・教職員とも「3」「4」の割合は昨年より伸びている。過渡期で、学校ホームページが定期的に稼働していなかったため、来年度はその点の充実を図り、更に分かりやすく伝える努力を続けていきたい。○児童の安全安心のため、地域の中に「スクールガード（見守り隊）」の立ち上げを行った。不審者・交通安全の見守りだけでなく、地域の中で子どもを育てるといった観点からの連携・協力が図られており、教育活動に大変功を奏している。

14 家庭や地域との連携協力

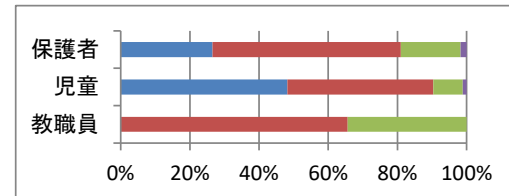
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



④本校の教育

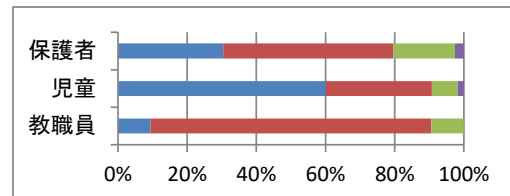
15 1

子どもは、誰に対しても「自分から、元気に、笑顔で」あいさつができていますか。



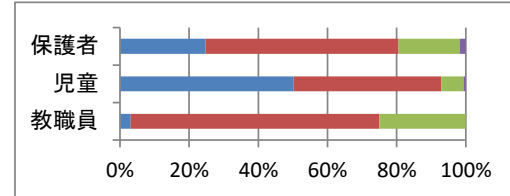
16 2

子どもは、家庭学習（宿題）に進んで取り組むことができていますか。



17 3

子どもは、「話をしっかり聴く」ということができていますか。



【学校から】○あいさつに関しては評価は高くないが、11月末からの「あいさつカード」の取り組みにより、大変良くなってきた。これはスクールガードも巻き込んだ全校的な取り組みであり、児童の中に「あいさつをしたら気持ちいい」「あいさつしたら褒められる」という意識が育ってきていることもあり、今後の伸びが期待できる。○家庭学習については、個人差が大きい。学校と家庭とが連携して取り組まないとならない課題である。学校・学年としての「基準」を機会あるごとに明確に示すなど、客観的な指標作成を行い意欲向上を図っていきたい。○「話をしっかり聴く」ということは、本年度の重点目標の一つであった。全校朝会・集会・授業の様子を見ると、かなり達成できている状況であり、昨年度より伸びてはいるが、評価はあまり高くない。重点的に力を入れてきた項目であった故に目標値が高かったということが原因とも考えられるが、継続して「聴く」指導の充実を図っていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、などあらゆる機会を通して情報発信を行う。ホームページのシステム更新が終わったので、ホームページの充実も図り、情報公開に努めていく。

○児童一人一人を大切にしたい指導や対応は、豊かな心をはぐくむ教育の取り組みの基本である。日記やきずなアンケート、スマイルタイムなどを継続して行い、いじめは当然のこと児童の悩みや困りに気づき、児童が「学校が楽しい」「明日も来たい」と思える学校づくりを行う。

○毎時間の授業の充実のための教材研究を続けていくとともに、整備されたICT機器を活用した分かりやすい授業づくりを重点目標として取り組んでいく。また、体制を充実させ、個に応じた学習のさらなる支援・徹底を行う。「聴く」指導に関しては、継続して学校の重点目標と位置づけ、今後は一歩進めた「考え、発表・行動する」を目指していく。

○熊本市学力調査を受けて、より児童の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努めていく。

○PTAや地域諸団体と連携・協力を行いながら、「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、あいさつや規範意識をはじめとした更なる児童の健全育成を目指す。安全・安心に関しても、今後もスクールガードや子ども会等の協力を仰ぎながら、取り組んでいきたい。

○「開かれた学校」という観点から、安全、総合・教科学習などを主として、地域・外部との交流、活用をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。特に、総合的な学習については、「校区探検」「良いところ探し」「ふれあい遊び」「農業体験（米作り）」などの体験活動を重ねることにより、地域の「もの」「ひと」「こと」との繋がりを育んでいく。

○年間指導計画を見直したり体育の授業改善を行ったりして、児童の体力向上に向けて取り組んだ。どの学年も熊本市平均を上回る種目が多くなった。さらに柔軟性・俊敏性をアップするため外遊びの推奨を図ってきたい。

学校関係者評価

○授業参観に参加しての感想は、児童が伸び伸びと学習に参加しているということである。先生たちと一緒に、楽しんで授業をつくっている。運動会や音楽会の様子も立派で、児童がしっかりと活躍していた。一人一人のがんばりが光る発表であった。

○児童の「いじめ等」が世間ではよく言われている。どの児童も被害者にも加害者にもなる問題であるだけに、学校と家庭とがしっかりと連携して対策・取り組みを図っていく必要がある。ネットいじめなども心配であるので、親が後手後手に回らないように、研修会や講演会などに積極的に参加してもらいたい。

○総合的な学習で、体験学習として「米作り」を5年生の児童と一緒にこなした。収穫寸前にイノシシにやられて残念であったが、その後、5年生が開いた「感謝の会」を見てみると、自然の厳しさやイノシシ対策等も学べたようであった。来年度、次の5年生と対策を練って再挑戦していく。

○児童は、毎朝元気に挨拶をしている。スクールガードによる「あいさつカード」の取り組みが功を奏しており、また、企画から実行まで間が空かなかったのも素晴らしいと感じた。

○育成クラブに通ってくる児童の様子を見てみると、児童と児童、学校（先生たち）と児童、の繋がりをを感じる。学校に楽しんで通っていることが伺える。

○1年間、教師の卵の大学生が、行事や機会あるごとに龍田西小学校へ入り、生き生きと活動している児童の姿や先生たちの熱心な取り組みを見ることができた。なお一層「教師を目指そう」という意欲が高まったようだ。